

平成27年度 第7回豊岡市教育委員会の会議（定例会）会議録

○ 開会及び閉会の日時及び場所

平成27年10月27日（火）

場 所 豊岡市役所但東庁舎2階 大会議室

所在地 豊岡市但東町出合150番地

開会時間 午後1時30分

閉会時間 午後3時5分

○ 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	委員（委員長）	深田 勇
	委員	友田 千織
	委員	宮嶋 珠美
	委員	中川 茂
	委員（教育長）	石高 雅信

欠席委員 なし

○ 委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

事務局	教育次長	丸谷 統一郎
	教育総務課長	和藤 達也
	こども教育課長	田淵 重遠
	こども教育課参事	鳥居 保
	こども育成課長	福富 省吾
	教育総務課長補佐	堂垣 真弓
	教育総務課係長	向原 芳江

事務局以外 地域コミュニティ振興部

生涯学習課長 井上 貢

出石振興局

地域振興課参事 阪本 義典

○ 日程

第1 会議録署名委員の指名

友田 千織 委員

第2 前回の会議録の承認

平成27年9月28日（月）開催 第6回定例会

第3 教育長の報告

第4 地域コミュニティ振興部の報告

1 生涯学習課

(1) 市民ふれあいのつどい&青少年健全育成大会について

2 文化振興課

(1) 第66回豊岡市美術展審査結果について

第5 議事

○議案第26号 豊岡市伝統的建造物群保存審議会委員の任命について

【非公開案件】

○議案第27号 寄附物件の申出について（3件）

第6 教育委員会事務局の報告

1 教育総務課

(1) 学校整備審議会経過報告について

2 こども教育課

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析結果と対応策について

(2) 豊岡こども支援センター9月の活動状況報告について

(3) 豊岡こども支援センター移転について

3 こども育成課

(1) 平成28年度幼稚園・保育園・認定こども園の入園児募集について

(2) 平成28年度放課後児童クラブ入所者募集について

(3) (仮称)小坂・小野認定こども園整備に係る小野地区アンケート結果について

第7 教育委員会活動予定

1 次回教育委員会会議の日程について

2 今後の活動・行事予定

○ 会議の概要

開会 午後1時30分

(深田委員長)

ただいまから平成27年度第7回定例の教育委員会を開会いたします。

本日は教育委員全員が出席しておりますので、会議の定足数を満たしております。会議が成立していることを報告させていただきます。

それでは、会議次第に従いまして、進めさせていただきます。

[日程 第1 会議録署名委員の指名]

(深田委員長)

第1、会議録署名委員の指名ですが、本日は友田委員にお願いします。よろしくお願いします。

[日程 第2 前回の会議録の承認]

(深田委員長)

第2、前回の会議録の承認です。平成27年9月28日に開催いたしました、平成27年度第6回の定例会の会議録につきましては、委員の方々にすでに配付をしております。承認を得たいと思います。誤りだとか修正などはなかったでしょうか。

(委員)

なし。

(深田委員長)

異議はないようですので、会議録につきましては、承認するという事に決定をさせていただきます。

[日程 第3 教育長の報告]

(深田委員長)

第3、教育長報告。では、教育長、報告をお願いいたします。

《教育長の報告概要》

9月28日から今回の定例教育委員会会議開催までの期間における教育活動の概要

- *10月8日に豊岡市南ブロック児童体育祭、10月9日に豊岡市北ブロック児童体育祭が開催され、どちらも挨拶に行った。開会行事の中で、昨年までと違って、子どもたちの聞く姿勢がちゃんとできているなど感じた。子どもたちにも、しっかりと話が聞けているということについては、素直に私の気持ちをそこで述べさせていただいた。
 - *10月15日と16日には、コウノトリ共生課、大交流課と、ふるさと教育に関する副読本のことについて協議した。ふるさと教育で市としては共通の課題であるコウノトリ、ジオパーク、それと豊岡の産業・文化について、すべての学校で取り組んでくださいというお願いをしている。そういった中で、それではコウノトリ、ジオパーク、産業・文化について、どういった内容について取り組むのかということをお任せにすると、市としての目指す基準をクリアすることができないということになるので、やはりこの3つについては学習内容を示す必要がある。そこで、3課と協議した。コウノトリ共生課と、大交流課、エコバレー推進課の3つの課とも子どもたちに伝えたいことがあるという話があったので、教育委員会がその3課の協力要請を受けて、それぞれ先生方に委員として出ていただくなかで委員会を構成し、作成に協力していくことになっている。このことについては11月10日の校長会における小中一貫教育に関する教育委員会の説明を受けて、その後からこの取組がスタートしていく。
 - *10月22日に、地方創生戦略会議があった。一応これで地方創生の戦略会議は終わりになるわけだが、その中で委員さんから、「やはり学力というものも、定住する上で1つの選択肢になる。したがって豊岡もしっかりと学力をつけていく、そういった取組をお願いしたい」という意見があった。
- 同じ日に、近畿へき地教育研究大会もあり、その開会の挨拶で、地方創生における教育の役割についてを内容とする挨拶をさせていただいた。具体的には、「これから私たちは、『志を果た

していつの日かふるさとに帰らん』、そういった人材を作るのか。『志を果たしにふるさとに帰る』、こういった人材を作るのか。東井義雄先生が『村を育てる学力』を提唱された。それは今こそ地方創生のそこに結びつくものであり、私たちはふるさとを思い、ふるさとを思い続け、そしてふるさとを支える人材を育てる、そういった教育をするべきだ。したがって豊岡では今年度から小中一貫教育に取り組んでおり、但東地区はそのモデル校区である。」といった内容である。

＊目標管理シートの中間面談があった。これについては、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、焦点を絞ってお願いもしてきたし、相当厳しく校長先生方に指導をしている。

(深田委員長)

ありがとうございます。教育長からの報告がありました。何か質問等ありますでしょうか。では教育長報告、以上で終わらせていただきます。

[日程 第4 地域コミュニティ振興部の報告]

(深田委員長)

第4、地域コミュニティ振興部の報告に移ります。まず生涯学習課の報告をお願いしたいと思います。生涯学習課長、説明をよろしく願いいたします。

1 生涯学習課

《生涯学習課長の報告概要》

(1) 市民ふれあいのつどい&青少年健全育成大会について

市民ふれあいのつどい&青少年健全育成大会について、今回はふれあいのつどいと青少年健全育成大会を同時開催しようとするものである。日時は、11月28日・土曜日、市民会館の文化ホールで12時30分開場、午後1時から開演である。実践発表として、五荘小学校金管バンドの演奏、人権標語・ポスター・作文の最優秀賞の表彰伝達、そして山本浩之さんによる講演会が午後2時からという予定である。教育委員の方々については、全員出席をお願いしたい。

(深田委員長)

では、コミュニティ振興部の1番目、生涯学習課の報告は以上で終わらせていただきます。続きまして、文化振興課の報告をお願いしたいと思います。今日は教育総務係長が代行して説明をしていただくということになっていますので、よろしく願いします。

2 文化振興課

《教育総務課係長の報告概要》

(1) 第66回豊岡市美術展審査結果について

第66回豊岡市美術展の応募状況について報告する。出品総数は5,970点、出品人数が5,798人、展示点数は、入選以上の展示となっており、1,311点となっている。審査結果は先日、文化振興課から各委員に別途送付させていただいた資料のとおりである。来月の定例教育委員会会議では、文化振興課から総括的な報告がある。

[日程 第5 議事]

(深田委員長)

第5、議事です。本日の議事に移る前に1つ教育委員方にお諮りをしたいと思います。議案第26号につきましては、人事案件となっておりますので、先の改正前の豊岡市教育委員会会議規則第18条第1項の規定に基づきまして非公開として審議をしてよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(深田委員長)

出席されている委員のすべての了承を得られましたので、議案第26号につきましては非公開とさせていただきます。本日は傍聴の方がいらっしゃいませんので、このまま続けさせていただきます。

では議案26号「豊岡市伝統的建造物群保存審議会委員の任命について」を議題とします。これにつきまして出石振興局の地域振興課参事、説明をお願いします。

○議案第26号 豊岡市伝統的建造物群保存審議会委員の任命について

【非公開会議】

≪ 豊岡市伝統的建造物群保存地区保存条例施行規則第8条の規定に基づき、豊岡市伝統的建造物群保存審議会委員を任命することについて、出石振興局・地域振興課参事が説明し、審議の結果「異議なし」と決定された。≫

(深田委員長)

引き続きまして、議案27号「寄附物件の申出について」を議案といたします。教育総務課長、説明をお願いいたします。

○議案第27号 寄附物件の申出について

≪教育総務課長の説明概要≫

3件の寄附物件の申し出があったので、これを受納しようとするもの。資料のとおり、団体から3件の寄附物件の申し出を受納することについて、ご審議いただきたい。

(深田委員長)

ありがとうございました。説明は終わりました。

質疑に入ります。質疑はありませんでしょうか。

(委員)

なし。

(深田委員長)

では、私からお願いします。空調設備のような経費のかかるものについては、学校の需用費の中でみていくことになるんだろうと思うんですが、そういう経費については、寄附を受けた後、予算立てとかいうようなものはされるんですか。

《教育総務課長の説明概要》

当然に電気代等が必要になるので、予算の処置はしていくが、寄附物件として受けるのか受けないのかというあたりが、問題になってくる。

(深田委員長)

わかりました。その他質疑ありませんか。

では、質疑打ち切ります。討論に入ります。討論はありませんか。

では、討論を打ち切ります。では、お諮りいたします。本案につきましては、原案の通り受納を承認するという事に決定してご異議ありませんでしょうか。

(委員)

異議なし。

(深田委員長)

異議なしと認めます。議案第27号につきましては、原案の通り承認するという事に決定をいたしました。

[日程 第6 教育委員会事務局の報告]

(深田委員長)

続きまして、第6、教育委員会事務局の報告に移らせていただきます。まず教育総務課長、説明をお願いします。

1 教育総務課

《教育総務課長の報告概要》

(1) 学校整備審議会経過報告について

学校整備審議会については、現在までに3回の委員会を開催したので、中間報告をさせていただきます。

第1回審議会では、10年先の児童・生徒数の推移値等を資料として、学校の小規模化が進んでいることを確認し、施設については今回検討対象とする施設を、小学校・中学校の校舎並びに体育館とし、幼稚園施設等は別途検討を進めるということを確認した。

第2回委員会では、学校整備の目標使用年数や整備基準については、鉄筋コンクリート造りでは、新築後30年程度で大規模改造、50年程度で長寿命化改修を行い、さらに80年で改築とする。鉄骨造り、木造については、新築後30年程度で大規模改造、60年で改築をするということを案として提案したが、豊岡市として長寿命化改修に取り組んでいくという方向性は確認をいただいたが、建て替えまでの目標年数の目安の考え方については、結論に至らず、第4回の審議会でも再確認をすることになっている。

第3回の審議会では、国県における学校の適正規模や適正配置の基準を確認するとともに、小規模校のメリットやデメリット、実際学校統合した、西気小学校と清滝小学校、竹野中学校と森本中学校のその後の状況なども参考資料として出ささせていただき、現在の下限の目安の見直しと下限の目安に達した場合の対応について協議した。下限の目安の見直しについては、特に中学校の規模について結論に至らず、継続審議となっており、次回第4回の審議会で再確認をする。また下限の目安に達した場合の施設整備の方向性については、概ね10年先を目途に、下限の目安に達した学校整備については、長寿命化改修など大規模な施設整備は原則的に実施をせず、修繕等維持管理整備を基本とするということについては、確認をいただいている。また下限の目安に達した学校など小規模校の教育的課題を解決するための方策としての学校統合などの具体的な検討は、今回の審議とは別で進めていくという方向性を確認しているが、答申への記載については、次回の審議会で再確認するという状況である。

今後の予定として、来る11月5日開催予定の第2回総合教育会議においても、第4回審議会を踏まえ、審議会の開催状況を報告したいと考えている。その後は、市長協議等も踏まえながら12月に答申をいただく日程で審議会を進めていきたいと考えている。また、答申をいただいた後は、教育委員会において、年度内に現行の豊岡市学校整備計画の見直し策定をしていきたいと考えている。

最後に、現在までの会議録については、要旨として、市ホームページに掲載している。

《教育委員の質問・意見概要及び事務局の説明概要》

(中川委員)

まず質問だが、10月6日の会議録はホームページ上で掲載されているか。1、2回は9月議会の議員の要求資料等で見させてもらった。

(教育総務課長)

すでに掲載している。

(中川委員)

実際に統合を行った学校に関し、1年経過後のメリット・デメリット等の資料があるのであれば、我々にも見せてほしい。私たちも学校の運動会に行ったときに口頭では校長先生に聞いているが、ちゃんとしたものがあるのであればそれを示してほしい。

(教育総務課長)

会議等でお出ささせていただいた資料があるので、すぐに準備をさせていただく。

(深田委員長)

小学校については、現行の50人程度を最低限度にというようなところから、変更なしとなっている。もっと厳しい意見が出るかなと思っていたが、そういう意味では、地域のコミュニティの1つの中核拠点としての役割等々のことについても十分配慮されて審議されているのだと感じてほっとしている。中学校についてはこれからまだ審議に入ることだが、今の現行の案はそれなりに整備された案だと私なりには思っている。そういう意味ではこれからもこの審議内容についてもやはり注目していかないといけないと思う。

(深田委員長)

続きまして、こども教育課参事、報告・説明お願いいたします。

2 こども教育課

《こども教育課参事の報告概要》

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析結果と対応策について

全国学力・学習状況調査の分析結果と対応策であるが、本日配付した資料の冊子は、調査について、それから全体概要、授業における5つの徹底継続実践事項を活用した課題解決のための授業アイデア、4つの提言、そして最後は授業における5つの徹底継続実践事項という構成で作っている。

昨年、授業における5つの徹底継続実践事項ということ、この分析結果の際に学力向上検討委員会からの提言ということで各小中学校に提起した。本年度はそれを受けて5つの徹底継続実践事項を使ってどんな授業アイデアをしていくことが豊岡市の子どもたちの学力向上に繋がる授業改善になるのかということ提案した。それぞれの学力向上検討委員の先生方の実践アイデアを提案事項として掲載している。また、授業における5つの徹底継続実践事項については、昨年から一言も文言を変えずに提示している。毎年変わるということは、先生方の取組をじっくりと行ってそれを評価する時間がないということになる。最低限3年から5年はこの5つの徹底継続実践事項で、本当に中身のある実践ができるかどうか集中して力を注ぎ、そしてそこから子どもたちの学力が実際どうなったのかということの評価・検証していく必要があると考えている。そういった意味を含めて5つの徹底継続実践事項は変えていない。

(2) 豊岡こども支援センター9月の活動状況報告について

こども支援センターの活動状況について、毎月報告をしている様式の数字で確実に言えることは、毎月センターの職員が獅子奮迅一生懸命やっていることである。数字になると、この数字が多い少ないに目が行きがちだが、減っていこうが増えていこうが、数字がそこにあるというのは、そこに子どもたちがしんどい思いをしているだとか、ぜひ支援をしてほしいという家庭があるだとか、そしてそのことに関わったセンターの職員がいるだとか、そんなことを表している。この数字の読み方、捉え方によって、豊岡市がこの支援センターについて、どう捉えていくのかということの意味付けていくことになり、そんな報告にもなるということである。

(3) 豊岡こども支援センター移転について

豊岡こども支援センター移転について、今は2つの場所で職員が仕事をしているが、いよいよ12月1日からこども支援センターが、新しい場所で1カ所一堂に会して業務を開始していくことになる。12月1日の移転に向けて現在急ピッチで整えている最中である。私も先日ほぼ出来上がっている様子を見てきた。大変気持ちの良いフロアにいただいている。ここで子どもたちが活動したり、子どもに関する相談業務が行われたりするという事を考えて、これまでよりもより支援が充実する形で運営ができそうだと思う。

業務内容については、不登校支援のライン、それから発達に関わる支援のライン、そして子育て家庭支援のラインで、現在、それぞれの場所で業務をしているが1カ所になるということで、1つ強調されてくることがあると私は考えている。2つの側面をもって、その

1つの側面は、一緒になることで本当に子どもたちへの支援を関わりあってやっていく必要がある。関係する職員の総力で学校と繋がっていく。そのために横の連携を密にしていくということが重要で、その質が上がるということが実感できるということ。しかしこれは表裏一体のものという捉え方もできる。1カ所になることで、もっとできることが具体的に明らかになってくるということもあると思う。つまり、この3つのことが一緒になることで、これまでできなかったことが確かにできる。けれども、それをより子どもたちに返していくためには、もっと機能を充実させていかなければいけないということが強調されるという面もあると私は考えている。そういった意味も含めて、この支援センターはとても大きな一歩を踏み出したということである。

《教育委員の質問・意見概要及び事務局の説明概要》

(深田委員長)

今日の資料とは直接関係ないが、資料で送っていただいた夢実現力行動プラン2015の10月改定版で、ちょっとわからなかったのを教えてほしい。その中の指定指標の1番のところに学力学習状況調査のA問題における正答率が40%以下の児童・生徒の割合というのがある。26年の現状値から27年の目標値、そして今年の8月の結果が出ているが、26年度が0%なのに27年度の目標値が5%とか15%とかあるのは、現在値0%だったら次の年の目標がなぜ5%とか15%なのか、その辺が少し理解できない。

(こども教育課参事)

本来目標というのは達成するために段階的に良くしていくという考え方があるが、最初の計画では、5年後の目標値を設定する形をとっていた。けれども、その5年後の数値を具体的に各学校で設定するということの難しさ、豊岡市でその5年後の目標数値を設定することの難しさもある。また、その数値が妥当であるかどうかということも、合わせて検討する必要もある。そういったことから、豊岡市の教育委員会事務局ではどう考えたかという、子どもたちの数を40人学級と捉えたら全部で何クラス分ができる。40人学級の子どもの、そのうちの1人を変えていこう、好ましい数値に変えていこうというふうに考えて事務局では、次年度の目標数値を設定した。それが豊岡市全体の数字である。けれども学校によっては、大規模の学校もあれば4人、5人の6年生、つまりこの数字が反映していく子どもたちもいる。そういったことから、学校ではどんな数値の立て方をしてしまったかという、今の4年生であれば2年後で、この子たちが6年生になったときに学力学習状況調査を受けたらきつとしんどい状況になるだろうなということで、下方修正した目標設定をしてしまったということである。これがいいこととは思わないし、もちろん教育長も指摘されている。というのは各学年のものとしてその調査をとらえてしまったら、このようになってしまう。学校全体の教育力で子どもたちに実力をつけていく、学力を上げていくという発想に転換していく必要があるので、これはご指摘のとおり下がった目標を設定するのは矛盾が生じてしまうが、初めて数字目標を設定した取組なので、そういう捉え方は徐々に排除していく、改善していくという捉え方で理解をいただきたい。下方修正をして目標設定していく学校がこれから減っていくような働きかけを事務局の方からしていく。

(中川委員)

こども支援センター移転について、市民や保護者へのPRは、どのようにするのか。

(こども教育課参事)

学校については、パンフレットを作成している最中である。学校に配布するが、全家庭数配布できるかは未定である。学校を通じて学校日より等でお知らせしたり、ホームページに掲載するようなことを考えている。

(中川委員)

直接は関係ないにしても、たとえば福祉部門の民生委員等にも今作っているようなパンフレットは、できれば渡して理解してもらうことも必要かもしれない。

(深田委員長)

こども支援センターに関することだが、保護者が、このようなセンターがあるということ、そういう活動で相談にいけるんだということ、学校を通じてきちっと入っているかといったら、そうではないような気がする。私のところにも相談に来られる中で、こういうセンターがあるから、学校の先生に相談しにくかったら行って見たらどうだという話をしたら、そんなところがあるなんて知らなかったと親も言っているし、子どもも良くわかっていなかったみたいだ。啓発の仕方というか、知らせ方というのはいろいろ難しいかもしれないが、せつかくこういう規模で出来上がっていくのだから、有効に使ってほしい。

以前、教育長からも話があったと思うが、やはり各地域に民生・児童委員、そしてまた主任児童委員もいらしゃるわけなので、その辺の活動がなにかこのセンターとの間で連携できないのかなと思う。民生・児童委員の方も学校訪問をされているが、何か学校のその辺との繋がりがもう一つ悪いような気がする。そういう指摘もこの委員会の中でも出ているのだから、いろいろ研究してみただいただいたらありがたいと思っている。

(こども教育課参事)

民生・児童委員のことについては、こども家庭相談係がわりとお会いをしたり話をしたりする機会が多いと思うので、積極的にこれからこういうふうに支援センターが変わりますという情報は、入れてくれていると思う。

(こども育成課長)

11月9日に、児童虐待防止の関係で民生委員の研修会を予定してるので、その場で周知を図っていきたいと思う。また、こうして、ふれあいセンターとこども育成課の家庭相談係が1カ所で業務をするので、ある意味ワンストップの窓口が新たにできることになると思っている。ふれあいセンターの方は学校との関係が強く、家庭相談係の方は健康福祉部の健康増進課や社会福祉課、民生委員との関わりもあるので、そのあたりがブリッジになるような形で教育と福祉の連携が強化できればと、こども育成課としては考えている。

(石高教育長)

こども支援センターの移転について、ふれあいセンター等はいろんな広報を通じて連絡していると思う。ただ、保護者がそういうことを言われたから、それでは学校として、こども支援センターに行きなさいと、今の子どもの現状を考えたときにその指示をするのがいいのか。少なくとも中学校にはスクールカウンセラーが入っている。まず学校でその体制をとっていく中で、この子はこども支援センターに行った方がいいだろうということについては、その後の協議であって、最初からこども支援センターに行きなさいという紹介をすることは、私はどうかなと思う。やはりまず学校がしっかりその子の対応について考えて、学校と保護者が協議していく。その前提があって、こども支援センターなり、いろいろな専門機関が出てくるのはその次ではないかと私は

思う。

(宮嶋委員)

全国学力・学習状況調査の分析結果と対応策の冊子は、学校にももちろん配布されると思うが、全職員が読むのか。すごく立派なものなので、小学6年生や中学3年生の学力・学習のテストを受けたその担任の先生だけではなく、その他の職員にもしっかり見てほしいという希望がある。

(石高教育長)

その点で、今回の目標管理シートでもすべての校長先生に私が厳しく言ったのは、「平均正答率40%未満の子どもが非常に話題になるが、平均正答率40%未満の子どもは、6年生になって、あるいは中学校3年生になって突然出てくるのか」という質問をした。「小学校1年生の時からそういった状況はあるが、その子が何人いるのか校長さんご存知ですか。なぜこの質問をするのか。要するに、そういった子どもは小学校1年生から学校全体でどう関わっていくのかという指導をしなければ、6年生や中学3年生だけの問題ではないんですよ。そういった体制が学校の中でできていますか。まさに、この全国学力・学習状況調査の対応というのは、6年生の子どもだけ、中学校3年生の子どもだけに対応するという問題ではなしに、学校全体で子どもたちにどう力をつけていくのかということをしっかり協議していかなければだめなんです」ということを今回もかなり厳しく目標管理シートの面談の時に言った。

もう1つ、「全国学力・学習状況調査はこれで何回目ですか。その都度、学校はこんな対応策を取ります、こうします、ああしますという答えだけはいただきました。その結果がいつになったら数字として具体的に出てくるんですか。その答えを私は聞きたいです」と言って校長先生方と今回の目標管理シートはかなり厳しく議論させていただいている。したがって、各学校毎にそのあたりもう一度この取組を見ながら、全職員で共通理解はしていただけるだろうという思いを持っているし、当然その成果がどこかで出てくるだろうと思っている。特に学力の低い中学校区についてはそのあたりを相当厳しく、これは協議ではなく、指導をさせていただいた。学校全体で取り組んでほしいという思いのもとにそのあたりを話しているということを少し報告しておく。

(深田委員長)

学校訪問に行かせていただき、最後の先生方の研修のところまでも参加させていただいている。先ほど説明があった徹底項目については、見ていると、かなりやっておられると思うが、どういう質の徹底項目を実施するかだと思う。本当に子どもたちのアンケートを見たり、学校訪問で見たりしても、目標は提示されているし、振り返りもしていただいているという数字が出ているから、徹底されているが、ではなんでそれが成果として目になかなか見えてこないのか。確かにすぐは成果が出ないだろうと思うが、その辺のところも含めて、これは対応策というような形で出ているし、毎年対応策を考えていただいているので、あとは実際に指導される先生方の、テクニックではなくて気持ちだと思う。学校訪問すればするほど、先生方が一生懸命やっただいているのは感じるが、何か子どもたちに、すーっと入らないところが、それは何なのかなど思ったりする。この冊子は凄く分析もされているし、もの凄い資料だと思うが、これを先生方は読むだけではないかと思うので、その辺は、どうしたらいいのかはよくわからないが、もどかしさを感じる。

(こども教育課参事)

私はそんなに悲観はしていなくて、昨年焦点化したものを今年こういう形でまとめて、今度は

それを確実にそのまま踏襲した形で来年に向かう。この冊子は毎年作っていたが、やはり時期時期によってその内容をきちっと変えていくことが大切だと思う。5つの徹底継続実践事項を核にしていこうと始めたのは昨年である。5つの徹底継続実践事項というのは、見通しをもつこと、考えをもたせる場面、それから話し合う場面、そして活用だとか、実のある活動を重視する、そして最後に振り返る場面の5つで構成している。この5つの構成というのは、全国学力・学習状況調査において、学力と相関関係のあったものを、項目を選びすぐった形で、この5つに落とし込むようにした。基準は学力との相関関係があるかないかである。委員長が言われていることは、2つあるのかなというふうに私は思う。1つは取り組んだことがその子どもたちに数値として、取り組んだことの数値、認知の数字としての反映の仕方と、それから取り組んだけれども学力が思うようにリアルタイムに上がるか上がらないかということの2点かなと私は解釈したのだが、因果関係ではなくて相関関係なので、これをやれば学力が上がるという原因と結果の関係ではないということは、やはり認知しておかないといけないと思う。そして着実に見通しをした、振り返りをしたという認知の数値は、劇的に上がっている。これについては先生方が取り組んだことが各校の数値にやはり跳ね上がっているので、この方向はいいのかなと思う。そしてそれが学力に反映していくにはそれはちょっとまた別の問題になる。例えば、ある教育学者によると、持ち家率だとか離婚率が学力とどうやら関係がありそうぞという指摘をする、そういう視点もある。豊岡市は子どもたちの学力について、家庭との関係をどんなふうと考えていくのかということについては、やはり各学校がまた各担任が繋がっていかなければいけない内容もあるので、子どもたちの学力をどう捉えるのかということについて、やはりこの学力・学習状況調査はすごく課題提起、その提案性をもった取組なのかなというふうに考えている。

(石高教育長)

例えば5つの徹底継続実践事項を昨年度提案して、まだ今、学校訪問しても、そのことが定着していない学校がある。なにかというと、管理職。校長・教頭がしっかりしなかったら絶対に徹底しない。我々は校長・教頭を通じてものを言ってるわけだから、そこから学校の中で取り組むことを重点的に決めてもらわないといけない。我々が直接学校に行ってすべての学校を指導するわけではないから、当然管理職はそういうことに対して、うちの学校ではこれとこれを絶対やるんだという指導がなければ、絶対徹底しない。だから1年経って、先だっても学校訪問したが、またバラバラで、思わず私は校長を指導した。校長の指導力はどこにあるんだ。そういった状況なので、我々は校長・教頭をしっかりと指導していく中で、教育委員会で決まったことをしっかりと下ろしていく体制を作っていないと駄目ではないかなと思う。

(深田委員長)

先ほど話があった学力格差と経済格差、家庭間格差のような話の部分だが、その辺のことで話を進めると、なかなかこれ以上進めない部分があったりするが、結局社会的な格差が教育格差・学力格差を生み出しているということに繋がっているということになる。

(こども教育課参事)

そういう指摘があるということである。結局、昔と今と変わったのは、それをデータとして示し始めたというのが今である。例えば、親が本をもっていて、その親が読書をするような家と、そうではない家。そういうことの様々な分析をするのが学者である。ただ考えておかなければいけないのは、その学んでいる子どもたちが不公平感、不平等感を持つようなことを絶対に学校はしてはいけないわけで、公教育のなんたるかというのはそこだと思う。なので、この子は持ち家

だからどうのこうのという考え方は絶対教師はしない。もちろん、我々も事務局としてそんなことは考えない。あくまで、学校ができる事はなんだろう、家庭への働きかけもその中の1つだし、授業改善こそをしっかりしなければいけないというふうに判断しているのも、その理由である。だから、学力とは何なのかわからない部分もあるが、我々が考えている学力は、学校教育によって高めることが可能なものを学力と呼ぶなければいけないので、そこの部分について誇りを持ってやっていこうということである。

(深田委員長)

そういう意味では、やはり豊岡市が取り組んでいる教育政策の中で、例えば図書館のこと1つにしても読書の指導にしてもそうだが、そういう部分を埋めていこうとしている。だから、やっていることは間違っていない、当を得たことなんだが、それをそういうふうな捉え方も一方で分析としては必要かもしれない。「気持ちや」みたいなことを、ちょっと言葉足らずな言い方で申し訳けなかった。

(石高教育長)

秋田や福井の学力がなぜ高いのかということについては、そういった視点を表に出している学者もいる。それはその学者の1つの考え方であって、我々はだからそれに惑わされることなく、目の前の子どもたちにしっかりと力をつけていく、この教育をしなければならないと思う。

(深田委員長)

では、次にこども育成課長、報告・説明をよろしくお願いします。

3 こども育成課

《こども育成課長の報告概要》

(1) 平成28年度幼稚園・保育園・認定こども園の入園児募集について

来年度の幼稚園・保育園・認定こども園それから放課後児童クラブの入所案内の内容について、昨年と同様に11月に申し込み期間を設け、11月9日から11月30日までの期間で申し込みを受けていく。幼稚園・保育園・認定こども園の施設については、来年は新設の園はないので、27年度と同じ園で入所申込を受け付けていきたい。

(2) 平成28年度放課後児童クラブ入所者募集について

放課後児童クラブについて、小学校の方に全所開所するというので27年度取り組んできた。指導員の確保ができなくて遅れていた竹野南についても、9月1日から指導員が確保できたので、すでに開設をしており、29の小学校区、すべての小学校で放課後児童クラブの受け入れをしていきたい。また、入所申込みの状況については、1月になるかと思うが、定例教育委員会の場で報告をさせていただく。

(3) (仮称) 小坂・小野認定こども園整備に係る小野地区アンケート結果について

小坂・小野認定こども園の地域との調整の関係だが、8月にアンケート調査を行い、そのアンケートの結果がまとまった。小野地区の就学前児童の保護者の方が47世帯あり、父母がいるという想定で、各家庭に1枚、それから区長会と話をする中で、これから結婚して子どもが生まれる可能性のある20代・30代の若い方も対象にしたらどうだということで、就学前

児童の保護者の方とだぶる部分があるが、20代、30代の方244人に送った。回収の方は、やはり独身の方はあまり関心がなかったのか、あまり回答は返ってきていないが、63人の方から回収をしている

その結果について、小坂幼稚園と小坂保育園、小野幼稚園を一体化して認定こども園にすることについての賛成・反対の意見、回答をもらった。反対の意見の間で、「反対、どちらかという反対」という意見が39人、「賛成、どちらかという賛成」が33人ということで、全体で少し反対が多いのかなという状況である。それぞれその他意見ということで、賛成または反対の理由であったり、その他の意見を伺っている。賛成または反対の理由の中で、「賛成、あるいはどちらかといえば賛成」の意見の理由については、子どもの数が少ない、人数が多い方がいいとか、少人数では子どもがかわいそうというような意見が多かった。「反対」の理由では、小学校とのつながり、それから子どもが少なくなって統合はやむを得ないと思うが、やはり幼稚園と小学校とが別々の統合時期はよくないということや、小学校の統合もふまえた中で反対というような意見を出されている方があったかと思う。その他に、小坂地域が、10年前の台風23号のときに水害で浸かったというようなことで、やはり災害時の安全性について不安があるという意見もあった。

先ほどの全体の賛成・反対の割合と、それぞれの子どものある家庭、子どものない家庭、それぞれの世帯における賛成・反対の理由の割合を円グラフにした。0～3歳児の家庭では、どちらかという0～2歳では賛成の方が少し多いし、3歳児の賛成・反対の割合では、反対の方が少し多い。ただ4歳、5歳、小学生と年齢が上がっていくにつれて、やはり小学校を見据えておられるのか、小学校と幼稚園との併設の形の方がいいというようなことでの反対の意見が多いのかなと思っている。ただ中学生に上がると、回収した意見が7人になるので、人数が少ないが、やはり中学校に上がってまた大きな子ども集団の教育を受けられるということで、また賛成の意見が多いというような特徴的なところがあるかと思う。

このアンケート結果を小野地区の区回覧をお願いしており、11月19日にまた改めて保護者の方それから区長さん方、地域の方を集めてアンケート結果の報告、それから認定こども園への移行に向けての意見調整を図っていきたいと考えている。

もう1点、11月28日の午前中、10時から市民プラザのほっとステージで「運動と学習をセットにする豊岡の教育シンポジウム」を開催させていただく。前回会議で日程は案内したが、シンポジウムの概略の内容をチラシにまとめた。教育委員の方々にも参加いただきたい。

《教育委員の質問・意見概要及び事務局の説明概要》

(宮嶋委員)

認定こども園の長時間児の対象年齢について尋ねるが、但東の合橋は6か月からで、高橋と資母が11か月からというのはどうしてなのか。同じ町なのになんで違うのかというのがちょっと疑問で、そういう不平とかは出ないのか。

(こども育成課長)

資料の保育園のところを見ていただいでわかるように、それぞれの施設によって受け入れする年齢が異なっている。生後2か月から受け入れできるところと、6か月から受け入れできるところがあり、それぞれ園の施設の状況等で受け入れができる月齢を指定している。高橋と資母につ

いては、30名という定員なので、0歳児の保育室の広さであるとかそういったことも考慮している。施設の状況であったり、それから合併前の経過等があり、高橋と資母については11か月からというような設定をしている。

(石高教育長)

アンケートをとって、そのアンケートを今度は持って出て議論するのだが、何を議論するのか。教育委員会としての考え方をこの中に示して議論してもらうのか。「アンケートの結果、こうになりました、どうしましょう」と議論するのか。

(こども育成課長)

アンケート結果が、どちらかというとも2つに割れた形になっているので、あまり強引に認定こども園への移行の方針を出しても難しいと思っている。あらためて保護者の方に集まっただいて、このアンケートを踏まえてどういう考え方をされるのか、それからまた区や地域全体でどういうふうな意向があるのか、そのあたりを十分踏まえて考えていきたいと思っている。

(中川委員)

認定こども園でこのようなアンケートをとったのは初めてではないか。

(こども育成課長)

初めてである。区長さん方やPTAの役員さんと話していく中で、地域の考え方がなかなか掴めないということがあって、アンケートをしたらどうかという意見があったので、8月にその調査をさせてもらった。

(中川委員)

計画どおり進めていこうとする方向に行けばいいが、そうでないときには軌道修正がなかなか難しいと思う。

(深田委員長)

教育長から先ほどあったことについては、意向を大事にしないといけないので、計画どおりの方向で、という話にはしないということか。

(こども育成課長)

市としては、やはり計画どおり進めていきたいということで、方針を出しているが、地域としてそれに賛成していただけるのか。小学校のことも含めて反対なのかというところの意思確認をやはりすべきだと思っている。11月19日に説明会をするので、それまでに事務局の中でどういった形で保護者や地域の方に説明していくのか、市としての考えをどう示すのかというのは、教育長を含めて調整していきたいと思う。

(中川委員)

特に反対にあがっている項目を、1つ1つ潰していくということで利用するなら私はいいと思うけれども、単純に数でいくとなかなかしんどいと思う。

[日程 第7 教育委員会活動予定]

(深田委員長)

第7、教育委員会活動の予定について事務局から説明をお願いいたします。

《教育総務課係長の説明概要》

1 次回教育委員会会議の日程について

次回の教育委員会会議の日程について、11月の定例会は最後の移動教育委員会になるが、11月19日・木曜日の午前9時30分から城崎庁舎の2階の大会議室で開催する。この日は午前中ということで、定例会終了後の地域での学習会はせず、定例の教育委員会会議だけ行う。

12月の定例会は、第1希望は12月22日・火曜日の午後1時30分から、本庁舎で行いたい。第2希望が前日の21日・月曜日。どちらがよいか。

＜ 各委員の都合を確認し、12月定例会は12月21日・月曜日の午後1時30分から本庁舎の会議室で開催することに決定した。＞

2 今後の活動・行事予定

今後の活動予定は、資料に記載のとおりである。11月も学校訪問等々たくさん入っているし、総合教育会議、それから市長との懇談会などがあるが、よろしく願いしたい。

(深田委員長)

ありがとうございました。今後の活動予定については以上ですので、ご清覧ください。またご予定をお願いいたします。

では、その他でこの際、何か発言したいということありますでしょうか。

ではないようですので、以上をもちまして、定例の教育委員会会議を閉会いたします。

閉会 午後3時5分
